

## グローバルな考えで地域とつながり成長を 持続可能なロータリークラブを目指す

日本一会員数の多い国際ロータリー（以下 R I）第 2760 地区（愛知県）。新ガバナーに江南市大間町・学校法人聖英学園理事長、伊藤靖祐氏（59）が7月、就任する。職業倫理を重んじ、奉仕活動に貢献する世界的クラブだがこの地区には少子高齢化などの難題も多く抱えている。伊藤ガバナーに心境や抱負を伺った。

——7月に国際ロータリー第2760地区のガバナーに就任します。心境は？

**伊藤** 4920人の会員を抱える第2760地区は日本一大きな地区で、ワールドフード＋ふれ愛フェスタ等の大きなイベントを実施するなど、事業も他地区に対してアピール力、影響力があります。私がガバナー研修を受ける過程の中で他地区とかかわった際に、当地区の力強さを実感する一方で重責も感じています。また50代でガバナーを勤めている方は他地区にはおらず、プレッシャーはひしひしと感じてきました。ロータリーのイデオロギーもフィロソフィーも自分の考えとしてまとめ、地区内の85クラブのクラブ会長研修や地区研修協議会を実施し R I テーマと地区方針を伝え、さあ行くぞ、というのが今の心境です。それまでは、自分で大丈夫か？ と自問自答し重責を感じながらでしたが、今はこの地区をまとめ、良い地区にしていこう、そして世界でよいことをしようという段階までできました。

——この地区の現状をどう見えています？

**伊藤** 2013-14年度で会員数が4760人まで落ち込みましたが、現在は4920人。日本の人口構成は団塊世代があと2、3年で75歳に達します。団塊ジュニアが50代手前になりますが、日本の人口ピラミッドを見ますとさらにその先の世代の人口は少なく、ロータリークラブの持続可能性の問題を突き付けられています。その問題の解決策の一つとして女性会員を増やすことに力を入れていく

必要があります。昨今の女性は強さを持った方が多くいます。加えて50代以下にもアピールしていくことです。事業においては、継承者問題を抱えているところが多くありますが、ロータリーも同様で、続けていく人たちのパイが小さくなっています。危機感を持って組織の多様性と柔軟性を包摂して20年後も30年後も持続可能なロータリークラブとしていかなければなりません。

——前任の村井ガバナーとの違いは？

**伊藤** 組織のトップが代わると前例を踏襲するのか、しないのか、とか良いところ、改善するところ、などをよく聞かれますが、R Iにおいては、ガバナーは R I 会長の考えを地区に布教する宣教師という役どころです。ロータリーは世界に530地区あり、国際協議会（於サンディエゴ）で R I 会長のテーマを含めガバナーとしての研修を直接受けます。R I の戦略計画は5年周期で計画が練られます。私の就任する7月1日から新しい5年間が始まります。その戦略計画に基づいてロータリーを成長させようというのが私の覚悟です。あくまでも R I の考え方・テーマに基づくのが私の活動です。もちろん村井さんの考え方から教えられることは多くあり、継続性は大切に勉強させてもらいますが、基本は R I の戦略計画。R I の本部はシカゴにあり、そこから世界530地区のガバナーが一人ずつ任命され R I が承認します。

——ロータリーの事務所が置かれる名古屋市内のシティホテルは最近改修工事などが行われ